

重点プロジェクト計画概要一覧表（九州ブロック・沖縄）（令和8年度）

都道府県名	番号	計画名	計画期間 (月数)	分野 (複数可)	活動計画の要約	連携機関（役割分担）				活用事業	
						市町村	JA	民間企業	試験研究機関		その他
福岡県	1	農業トップランナーの育成	R7 ～ R8	経営	経営発展に意欲のある農業経営者を対象に、事業計画を実行する上での課題解決を目的に、スマート農業、マーケティング、人材育成等のテーマ別選択制の講座を開催する。 あわせて、講座受講後の継続した個別フォローによって、経営目標達成、先進的な農業経営を実現させ、本県農業を牽引するトップランナーの育成を図る。			・農機メーカー、流通事業者、経営コンサルタント、農研機構（講座における農業者への指導・助言）	・試験研究機関	・普及指導センター（講座受講支援、個別フォロー）	
福岡県	2	農業DX・スマート農業技術導入による経営発展	R4 ～ R8	稲作、普通畑作物、野菜、果樹、花き	水田農業では、米・麦・大豆の営農体系にスマート農業機械を導入し、効率的な技術等の実証及び効果的な活用方法を検討する。 麦では、デジタルデータを活用した収量・品質の向上に向け、現地実証を行い栽培管理マニュアルを作成し、経営規模拡大や経営発展に繋げる。 施設園芸では、IoT等のスマート技術の導入支援や実証試験を継続して行い、高品質・高収量・省力化を実現することで農業者の経営規模拡大や経営発展に繋げる。			・JA全農ふくれん（各産地への推進）	・農林業総合試験場（技術情報の提供）	・普及指導センター（実証ほの設置、データの収集・解析・結果検討、環境制御グループ支援） ・水田農業振興課、園芸振興課（普通作、園芸品目生産振興施策の実施）	
福岡県	3	スマート技術を活用した匠の技の伝承推進	R5 ～ R8	果樹	新規就農者および収量や品質が不十分な生産者に対して、スマートグラス、アイカメラ等を活用して高品質な果実の安定的に生産できる熟練の技の習得を図り、果樹の生産拡大に寄与する人材を育成する。			・JA全農ふくれん（関係機関との連絡調整）		・普及指導センター（生産現場技術対応） ・経営技術支援課（進捗管理）	
福岡県	4	「福岡の果樹」優良品種の生産拡大	R6 ～ R8	果樹	県育成等の優良品種の生産拡大・結実安定、収量確保、高品質果実生産の実践による所得向上と生産拡大を図る。			・JA（生産現場の植栽振興・技術対応等） ・JA全農ふくれん（関係機関との連絡調整、販売促進）	・農林業総合試験場（生産技術情報の提供）	・普及指導センター（生産現場の植栽振興・技術対応等） ・園芸振興課（生産振興施策の実施）	
福岡県	5	暑さに負けない！高温対策技術の普及推進	R8 ～ R10	稲作、普通畑作物、野菜、果樹、花き、畜産、茶	近年の高温傾向が生産に影響を及ぼしているため、高温対策技術の検証と評価、技術の普及推進を図る。				・農林業総合試験場（生産技術情報の提供）	・普及指導センター（生産現場の植栽振興・技術対応等） ・園芸振興課（生産振興施策の実施）	
福岡県	6	普及活動での情報機器活用とAI活用推進	R8 ～ R10	稲作、普通畑作物、野菜、果樹、花き、畜産、茶、農産経営	普及活動の効率化や高度化のため、タブレット等の情報機器活用体制の構築と普及活動でのAI活用推進の手法の検討やマニュアル化、経営支援でのAI活用の推進を図る。					・普及指導センター（生産現場の技術対応等） ・園芸振興課（生産振興施策の実施）	
佐賀県	1	佐賀の「稼ぐ」青年農業者育成プロジェクト	R8 ～ R12	経営	稼ぐ意欲のある青年農業者に対して、経営発展計画の策定・点検をもとに、技術・経営の両面から関係機関と連携した伴走支援を実施し、将来の中核的担い手となる稼ぐ青年農業者を育成するとともに、本県農業産出額の向上につなげる。	各市町 ・経営改善計画の策定支援 ・補助事業などの支援	各地域JA ・技術・経営指導 ・販売支援等			・振興センター（総括） ・農業経営相談所 ・政策金融公庫 ・その他の機関・団体 ・試験研究機関 ・農業経営課 ・さが山農政関係各課	・農業経営・就業サポート推進事業（国庫） ・佐賀の「稼ぐ」青年農業者育成プロジェクト対応事業（県庫） ・農業担い手Sプラス推進事業
佐賀県	2	「さが園芸888運動」実践プロジェクト	R5 ～ R8	野菜、果樹、花き、経営、就農	佐賀県で取り組む「さが園芸888運動」の目標を達成するため、各振興センターで園芸振興に向けた課題を設定、本県の農業産出額の向上につなげる	各市町 ・就農促進 ・補助事業などの支援 ・移住部署との連携（伊万里市等） ・労力確保モデルとの調整（白石町）等	各地域JA ・研修会開催 ・生産者指導等 ・新規就農者セミナー ・機械化体系などの実演会の調整（JAさが作物エリア）等			・振興センター（総括） ・その他の機関・団体 ・試験研究機関 ・農業経営課 ・その他農政関係各課	さが園芸888億円推進事業費
長崎県	1	環境変化に強く生産性の高い産地づくりの推進①	R8 ～ R12	スマート農業 稲作	○担い手の高齢化や労働力不足等による栽培面積の減少に加え、気候変動の影響等による生産量の減少や品質低下が課題である。こうした状況を踏まえ、産地規模の維持・拡大を図るため、スマート技術の導入により、生産性の強化を推進する。 ○農産分野では、地域・品目の特性や経営規模に応じて、スマート技術の導入による作業の省力化及び、生産性の向上 ・各地域の農地や担い手の状況に応じた品種構成や防除体系、水管理体制等についての検討 ・高密度播種、直播栽培等の省力・低コスト技術の実証普及を実施し、産地の規模拡大や高品質化、多収化等の改善を図る。	○振興局（普及指導センター）、農業イノベーション推進室 ○各市町	○全農、各JA、農業共済組合 ○関係企業	○農林技術開発センター	○地域農業振興協議会	○空飛ぶ未来を拓くドローンワールドプロジェクト（ながさき農業イノベーション推進事業） ○新基本計画実装・農業構造転換支援事業 ○持続的な農業生産体制構築推進事業 ○環境体全型農業直接支援対策 ○地域農業構造転換支援事業 ○産地生産基盤パワーアップ事業 ○長崎県肥防協会展示開設事業 ○ながさき農業気候変動総合対策事業 ○農業経営改善高度化支援事業 ○集落・産地サポート事業 ○病害虫総合防除対策 ○長崎県肥防協会展示開設事業 ○多面的機能支払事業、中山間地域等直接支払事業	

都道府県名	番号	計画名	計画期間	分野 (複数可)	活動計画の要約	連携機関(役割分担)					活用事業
						市町村	JA	民間企業	試験研究機関	その他	
長崎県	2	環境変化に強く生産性の高い産地づくりの推進②	R8～R12	R1 スマート農業 野菜 果糖 花き 茶	○担い手の高齢化や労働力不足等による栽培面積の減少に加え、気候変動の影響等による生産量の減少や品質低下が課題である。こうした状況を踏まえ、産地規模の維持・拡大を図るため、スマート技術の導入により、生産性の強化を推進する。 ○調査分野では、地域・品目の特性や経営規模に応じて ・スマート技術の導入による作業の省力化及び、生産性の向上 ・農地の集積・集約化による省力栽培環境の整備 ・新規就農者が定着しやすい産地体制の構築 ・スマート農業実証・普及の取組促進 を実施し、産地の規模拡大や高品質化、多収化等の改善を図る。	○振興局(普及指導センター)、農業イノベーション推進室 ○各市町	○全農、各JA、農業共済組合	○関係企業(資材メーカー、機械メーカー)	○農林技術開発センター	○地域農業振興協議会、花き振興協議会 ○産地生産基盤パワーアップ事業 ○強い農業づくり総合支援交付金 ○空農が未来を拓くローンワールドプロジェクト ○ながさき農業気候変動総合対策事業 ○集荷・産地サポート事業 ○環境保全型農業直接支援対策 ○病害虫総合防除対策 ○長崎県肥防除協会展示園設置事業 ○茶・葉たばこ等産地構造改革推進事業 ○地域農業構造転換支援事業 ○畑作物産地生産体制確立・強化緊急対策事業 ○持続的な農業生産体制構築促進事業 ○ながさき野菜産地イノベーション事業 ○新基本計画実装・農業構造転換支援事業 ○農業経営改善高度化支援事業 ○選ばれた県産農産物輸出拡大事業	○中山間地域デジタル化支援事業 ○産地生産基盤パワーアップ事業 ○強い農業づくり総合支援交付金 ○空農が未来を拓くローンワールドプロジェクト ○ながさき農業気候変動総合対策事業 ○集荷・産地サポート事業 ○環境保全型農業直接支援対策 ○病害虫総合防除対策 ○長崎県肥防除協会展示園設置事業 ○茶・葉たばこ等産地構造改革推進事業 ○地域農業構造転換支援事業 ○畑作物産地生産体制確立・強化緊急対策事業 ○持続的な農業生産体制構築促進事業 ○ながさき野菜産地イノベーション事業 ○新基本計画実装・農業構造転換支援事業 ○農業経営改善高度化支援事業 ○選ばれた県産農産物輸出拡大事業
長崎県	3	環境変化に強く生産性の高い産地づくりの推進③	R8～R12	R1 スマート農業 畜産	○担い手の高齢化や労働力不足等による栽培面積の減少に加え、気候変動の影響等による生産量の減少や品質低下が課題である。こうした状況を踏まえ、産地規模の維持・拡大を図るため、スマート技術の導入により、生産性の強化を推進する。 ○畜産分野では、地域・品目の特性や経営規模に応じて ・スマート畜産等によるコスト削減と生産性の向上 ・地域環境に配慮した畜産経営の推進 を実施し、産地の規模拡大や高品質化、多収化等の改善を図る	○振興局(普及指導センター)、農業イノベーション推進室 ○各市町	○各JA	○関係企業	○農林技術開発センター	○地域農業振興協議会 ○長崎県養豚協会 ○家畜保健衛生所	○ながさき農業気候変動総合対策事業 ○第4期ながさき肉用牛振興計画 ○肉用牛経営緊急支援事業 ○肉用牛生産構造強化促進事業 ○シシトウ長崎県中産産地推進事業 ○長崎県飼料増産推進事業 ○次代の放牧体系確立推進事業 ○次世代高能力雌牛群整備促進事業 ○畜産クラスター構築事業 ○ながさき養豚振興計画推進事業 ○畜産コンサルタント事業 ○飼料価格高騰緊急対策事業 ○県内堆肥流通体制強化緊急対策事業
熊本県	1	農畜産物の高温適応対策の確立	R8～R9	R9 水稲、野菜、果樹、花き、畜産	【問題】 ・気候変動の影響が顕著になっており、特に夏期は2年連続の猛暑を記録している。 ・効果が現れ始める高温対策技術の普及、気候変動に強い品種の開発・選定が求められている。 【目標とする成果(令和8年度)】 ・水稲『くまさんの輝き』栽培技術マニュアルの改訂 ・品種・技術導入による冬春トマトの生理障害果実(黄変果、軟果等)の発生低減 ・いたご専分化安定技術(積冷・遮熱など)の現地実証・技術確立 ・カンキツ日焼け軽減・ナシみつ症軽減対策の推進 ・乳用牛の乳量減少の発生低減 ・新品種導入・高温対策技術実証による切り花品質の向上 【活動計画(令和8年度)】 各重点プロジェクト、専門項目活動で実施					農産園芸課、畜産課	攻めの園芸緊急生産対策事業、産地パワーアップ事業、果樹経営支援対策事業、畜産クラスター事業、他
熊本県	2	水稲『くまさんの輝き』安定生産技術の確立	R6～R9	R9 稲作	【問題】 近年の気象変動の激化により、県産主食用米の収量、品質、食味が不安定となっており、特に高温障害による品質の低下傾向が著しい。県は耐暑性が高く、収量性が高く、食味が優れる『くまさんの輝き』を平成30年に奨励品種に採用し、県産米のトップブランドとして普及拡大を進めているが、商品性の特性を十分に発揮する栽培技術の確立が未達成で、生産現場における品質・食味の高位安定化も不完全である。 【目標とする成果(令和8年度)】 ①前年度までに有効性が明らかとなった技術の栽培マニュアル(暫定版)への反映・周知と本年度技術実証による新たな知見の取得 ②関係機関との連携による食味ランキング出品に向く品質・食味が優れる米の確保 【活動計画(令和8年度)】 ①研究成果、実証展示は結果に基づく有効な栽培技術の整理と普及(全域) ・普及・振興課が実施する実証展示ほの設置(6月)、調査(7～10月)等への技術的支援 ・研究成果、実証結果に基づく有効な技術の整理、栽培マニュアル(暫定版)の更新(12月) ②食味評価の獲得に向けた技術支援(全域) ・食味ランキング等への出品に向けた栽培技術指導(7～8月)及び進考支援(11月)		JA熊本経済連、各JA		農産園芸研究所、高原農業研究所	農産園芸課	くまもとの米・麦・大豆総合推進事業
熊本県	3	冬春トマトの生産安定対策の確立	R6～R9	R9 野菜	【問題】 冬春トマトの消費が鈍る11月～1月の出荷量が多い年では需給バランスの崩れから価格が低迷する傾向が見られている。また、ウイルス病(TYLCV、ToCV他)、春先の高温による生理障害(黄変果)に加えて、秋季の高温による着果不良や裂果等により収量の減少や品質の低下を招いている生産者もみられている。 【目標とする成果(令和8年度)】 ・高温対策技術(品種・果梗捻捻等)導入による裂果低減、着果安定、黄変果発生低減 ・優良品種の導入面積拡大及び地域が一体となった防除対策によるウイルス病の発生低減(主要産地での基大被害3%以下) 【活動計画(令和8年度)】 (1)現地調査等(熊本、宇城、玉名、八代他) ・6月～8月 R7年産展示ほ結果検討 ・8月～3月 実証ほ(高温対策、品種、病害虫対策)設置、調査 (2)研修会、会議等 ・7月 連携会議、12月、2月 現地検討会		JA熊本経済連、各JA		農産園芸研究所、アグリシステム総合研究所	農産園芸課、(一社)熊本県野菜振興協会	園芸生産総合推進事業、攻めの園芸緊急生産対策事業、熊本型みどりの食料システム戦略推進事業、【国庫】環境負荷低減活動定着サポート事業(みどりの食料システム戦略推進交付金)

都道府県名	番号	計画名	計画期間	分野 (複数可)	活動計画の要約	連携機関(役割分担)				活用事業	
						市町村	JA	民間企業	試験研究機関		その他
熊本県	4	県産茶葉新商品『熊本TC01』の生産拡大	R6～R9	茶	<p>【問題】 茶は県内各府県で生産されているが、本県産の茶は全国的な知名度が低く、リーフ茶(急須で淹れるお茶)を中心に他産地に対し競争力のある魅力的な商品がない。また、全国的な茶の消費量減少等により市場価格は低迷し、農家所得が減少している。</p> <p>【目標とする成果(令和8年度)】 ・定植2～4年目における栽培管理方法の相違による生育特性把握 ・現地調査結果を反映した幼木期管理マニュアルの改編 ・熊本TC01の現地普及に向けた関係機関との推進体制検討</p> <p>【活動計画(令和8年度)】 ・10～2月 茶関係機関や茶農家を対象とした現地検討会等の開催、普及推進体制検討 ・4～3月 現地定植茶園における技術管理の違いによる生育特性及び病害虫発生状況等調査(宇城、菊池、芦北、球磨、天草)</p>	JA熊本経済連、各地域農業協同組合		民間企業	試験研究機関 農研茶葉研究所	その他 農産園芸課	茶・薬用作物等地域特産作物の活性化促進、地域特産物産地づくり緊急支援対策事業、くまもと茶ビジネス確立支援事業
熊本県	5	土地利用型作物におけるスマート農業・DX等省力・低コスト生産技術確立	R6～R9	稲作、スマート農業	<p>【問題】 地域産農産物・法人等地域農業の担い手は新たな農地の引き受けにより耕作農地を拡大させており、オペレーターの高齢化等により労働力の確保が困難な状況下で営農を継続させるためにはスマート農機、農業DX、水稲直は等の省力・低コスト技術・器械の導入が不可欠である。しかし、それぞれの技術は導入に際して実用性、有効性の確認が必要のため、導入が進んでいない。</p> <p>【目標とする成果(令和8年度)】 ①自動水管理装置、省農管理システム、水稲乾田直は栽培に関する有用な実証結果を得る。 ②省力・低コスト技術の熊本県下の導入状況を把握し、各農業普及・振興課間で情報共有する。</p> <p>5 【活動計画(令和8年度)】 ①省力・低コスト技術(スマート農機、水稲直は等)の実証支援 自動水管理装置を用いた水田管理省力化の実証(球磨:6～3月) ・省農管理システムを活用した経営改善の実証支援(熊本、鹿本:4～3月) ・水稲乾田直は技術の実証(鹿本、阿蘇:4～3月) ②省力・低コスト技術の導入状況調査及び情報共有 ・各普及・振興課を介した実態把握とその情報共有(全域:9月)</p>	JA熊本経済連、各JA			試験研究機関 アグリシステム総合研究所	その他 農産園芸課	くまもと土地利用型農業競争力強化緊急支援事業 他
熊本県	6	スマート農業によるいちご収量の高位平準化	R6～R9	野菜、スマート農業	<p>【問題】 いちご栽培では、スマート農業の一つである環境モニタリングによるデータ共有が導入されているが、普及指導員等の環境モニタリングに対する理解が不足しているため、効果的な環境モニタリングの活用が浸透しておらず、県下全域への普及が図られていない。また、紙の栽培マニュアルは充実しているものの、栽培技術が寄り収量の少ない農家がいる。</p> <p>【目標とする成果(令和8年度)】 ・環境モニタリングマニュアルによる普及指導員等の技術力向上 ・いちご専分化定技術(株冷・遮熱など)の現地実証・技術確立</p> <p>5 【活動計画(令和8年度)】 (1)現地調査等 4月～翌3月 いちご栽培管理指針の編集(環境モニタリング技術・動画を含む) 4月～翌3月 環境モニタリング・高湿対策等は調査への支援(熊本、玉名・全域)5回 4月～翌3月 環境モニタリング普及拡大への支援(球磨)2回 (2)研修会、会議等 4月 関係普及・振興課、農業研究センター調整 1回 6月、12月 調査研究連携会議または現地検討会 2回 3月 調査研究実績報告会 1回</p>	JA 熊本経済連、各JA			試験研究機関 農産園芸研究所	その他 農産園芸課	協同農業普及事業、園芸生産総合推進事業、攻めの園芸緊急生産対策事業
熊本県	7	果樹園におけるドローン防除の省力化技術の普及	R6～R9	果樹	<p>【問題】 県内の果樹園は、傾斜地に多く分布し、園地が狭く、散在しているため、ドローン防除の導入事例は少ない。これまで、クワやカンキツ園でのドローンによる防除実証試験が行われ、防除効果と労力軽減効果が確認されているが、本格的な産地運用を想定した各種条件が特定されていない。</p> <p>【目標とする成果(令和8年度)】 ・クワ・カンキツ合わせて6事例以上の防除事例収集 ・サービス事業体調査 3事業体以上 実施</p> <p>【活動計画(令和8年度)】 (1)現地調査等 5月～10月 現地調査・現地検討会(カンキツ3事例) 8月 現地調査・現地検討会(クワ3事例) 1月 サービス事業体調査(料金体系・受託条件整理) (2)研修会、会議等 5月 R8年度活動計画・連携会議 5月 R8年度活動計画・連携会議</p>	熊本県果樹農業協同組合連合会			試験研究機関 農研果樹研究所、	その他 農産園芸課、サービス事業体	くまもとの果樹生産基盤強化事業、園芸生産総合推進事業、攻めの園芸緊急生産対策事業、未来型(スマートDX)果樹栽培技術推進事業
熊本県	8	果菜類の生産におけるIPM推進	R6～R9	野菜、病害虫	<p>【問題】 農業に頼った防除体系では、一部病害虫において薬剤抵抗性が発達することで防除が困難となり、果菜類生産の不安定要素となっている。抵抗性を発達させないためには、総合的な対策(耕種的・物理的・生物的・化学的防除)を組み込んだIPM防除体系が有効であるが、普及指導員等が活用できる状態にない。</p> <p>【目標とする成果(令和8年度)】 ・キュウリ(夏秋作)栽培に土着天敵(タバコカミカメ)を活用する場合の地域版マニュアル及び薬剤一覧表の作成 ・トマト栽培に土着天敵(タバコカミカメ)を活用する場合の経費的評価。</p> <p>5 【活動計画(令和8年度)】 (1)4～11月 キュウリ(夏秋作)IPM実証圃における地域版マニュアル等作成支援(球磨) (2)4～3月 トマトIPM実証圃における経営評価支援(玉名) (3)4～3月 IPM検討会(経営検証)の開催 (4)1～3月 各地域の果菜類IPM防除体系の共有(防除効果、導入ポイント、経済性)</p>	JA熊本経済連			試験研究機関 生産環境研究所	その他 農業技術課、農産園芸課	園芸生産総合推進事業、熊本型みどりの食料システム戦略推進事業
熊本県	9	持続可能なトルコギキョウ生産支援体制の構築	R6～R9	花き	<p>【問題】 県内トルコギキョウ農家104戸中約3割が、フザリウムを主因とする立枯病で減収(R4年産調<)し、生産の土気に大きく関わる状況。特に熊本、阿蘇、球磨地域で被害割合が多いが、具体的な防除方法、土壌環境等、普及指導員等が指導するための詳細なデータがない。また、連作により、P過剰をはじめとする土壌肥料成分の偏りが発生し、生産性を下げている可能性が指摘されているが、多くの産地で土壌分析結果の蓄積がされていない。</p> <p>【目標とする成果(令和8年度)】 ①菌密度及び耕種概要、土壌環境等について調査を継続し、複数年次のデータを取得 ②事例集(暫定版)を用いた現地指導を行い、効果を検証 ③得られたデータを基に事例集(暫定版)のブラッシュアップ</p> <p>【活動計画(令和8年度)】 (1)現地調査等 4月～9月 ①耕種概要(作型、土壌消毒方法等)、土壌環境(物理性・化学性等)、②菌密度の調査 9月～3月 立枯病発生状況調査、①、②のデータベースとの関連性を分析・考察。 (2)研修会、会議等 10月 R8年度産の実施状況等に関する会議開催 5月、9月、12月 専門研修会やプロジェクト会議にて取組状況を他普及へ共有し、</p>	各JA、JA熊本経済連			試験研究機関 農産園芸課、農研農産園芸研究所	その他 花き市場	くまもとの花ステップアップ事業、園芸生産総合推進事業、攻めの園芸緊急生産対策事業、ジューベンフラワー強化プロジェクト推進事業

都道府県名	番号	計画名	計画期間	分野 (複数可)	活動計画の要約	連携機関(役割分担)				活用事業	
						市町村	JA	民間企業	試験研究機関		その他
熊本県	10	土壌の理化学的診断による生育改善のための支援体制づくり	R6～R9	土壌肥料、持続可能な農業	<p>【問題】</p> <p>肥料コスト低減や作物健全性の向上、環境負荷低減など「みどりの食料システム戦略」の実現に向けて生産現場では土壌分析に基づく科学的な土づくりが求められているが、栽培指導にあたる普及指導員やJA指導員間で各地域(品目)の土壌実施の把握や情報共有が進んでおらず、また普及指導員の土壌診断スキルも十分でない状況にある。</p> <p>【目標とする成果(令和8年度)】</p> <p>①土壌分析に係るスキルを習得した普及指導員の育成 ②各地域(品目)で課題が見られる栽培土壌の状態把握と改善策の提示 ・クワリ新植時の排水不良対策による初年度の生育促進とクワリの生育に適した播種条件の明確化 ・地域の土壌特性に応じたカバープラントを活用した畦畔管理マニュアル作成に向けたデータ収集。</p> <p>5【活動計画(令和8年度)】</p> <p>①普及指導員研修の実施(土壌理化学的診断、土壌断面調査等) 4～3月 ②クワリの排水不良対策展示ほにおける現地調査・現地検討会および実践検討会の実施 4～3月 ③カバープラントを活用した畦畔管理に取り組み地域の現状把握と情報共有、および有効な管理方法の検討 4～3月</p>	J A熊本経済連			生産環境研究所	農産園芸課	地下水と土を育む農業総合推進事業、次めの園芸緊急生産対策事業
熊本県	11	大豆収量確保技術の確立	R6～R9	普通畑作物	<p>【問題】</p> <p>米・麦・大豆を基幹とする地域営農組織・法人等にとって、大豆の収量確保は経営上重要な要素である。しかし、近年の気象変動による発芽不良、担い手不足による基本的技術の実行・管理不徹底、さらには裂実による収穫ロスにより、県産大豆の単収は低下傾向が続いている。令和9年に県下全域に本県普及予定種裂実性品種「フクユタカA1号」について、普及率の低減が安定生産上の課題であるが、その方法が未解明である。</p> <p>【目標とする成果(令和8年度)】</p> <p>①現地栽培および農研センター試験栽培結果から「フクユタカA1号」の育立ち発生要因を確認 ②出芽安定性が高い省力播種法(ディスク式高速一工程播種法)の本県における有効性の確認 ③地域営農法人の品種・技術・作付け計画改善による増収事例(現状+50kg/10a程度)の確保</p> <p>5【活動計画(令和8年度)】</p> <p>①「フクユタカA1号」等実証展示ほ設置、調査への技術的支援、結果の共有(全域:6～2月) ②ディスク式高速一工程播種法の実証ほ設置・調査支援(熊本:7～3月) ③大豆増収が課題の地域営農法人への栽培技術・作付体系改善指導(共同調査研究:5～2月)</p>	JA熊本経済連、各JA			農産園芸研究所、高原農業研究所	農産園芸課、	県産麦・大豆生産拡大総合推進事業、麦・大豆生産技術向上事業、くまもと土地利用型農業競争力強化緊急支援事業
熊本県	12	子実用とうもろこし生産の取組み支援	R6～R9	畜産	<p>【問題】</p> <p>輸入飼料(とうもろこし等)の高騰により畜産の経営が圧迫されている。栄養価の高い子実用とうもろこしの生産は、取り組みが始まったばかりで生産技術が確立されていない。養豚農家や養鶏農家が取組む場合、元々、自給飼料を生産しない農家がほとんどのため、とうもろこしの基本的な栽培技術を持ち合わせていない。また、養豚農家や養鶏農家の多くが飼料を生産する農地の基盤がない。</p> <p>【目標とする成果(令和8年度)】</p> <p>・11期作(春播種)の雑草防除による単収増加(R7:526kg/10a→目標600kg/10a) ・2期作(夏播種)における施肥技術に基いたたい肥施用と産期の害虫防除による単収増加(R7:261kg/10a→目標:300kg/10a) ・2期作の夏播種における害虫防除の削減(R7:3回→目標:2回) ・畜産に取組む耕種農家の戸数及び作付面積の拡大(R7:7戸、45ha→目標8戸、50ha)</p> <p>5【活動計画(令和8年度)】</p> <p>①11期作(春播種)における雑草防除の検討 播種・除草機散布(4月)、生育調査・効果確認(4～7月)、収量調査・現地検討会(8月)、経済性の分析(9月) ②2期作(夏播種)における病害虫防除体系の省力化及び土壌分析・施肥指導による単収増加 土壌分析・種子薬剤処理(7月)、薬剤調査(9～10月)、収量調査・現地検討会(11月)、経済性の分析・防除体系の検討(12月)</p>				畜産研究所、九州沖縄農業研究センター	畜産課	自給飼料増産総合対策事業 国産濃厚飼料生産拡大推進事業 耕畜連携体制緊急整備事業
熊本県	13	担い手の確保・育成を担う普及指導員等の指導力強化	R6～R9	経営	<p>【問題】</p> <p>多くの地域営農組織等では、後継者不足、脆弱な経営基盤等の課題を抱えており、また、複数の品目生産部会においても、産地維持の懸念が顕在化してきた。それらに対応するには、栽培技術に加えて、経営面や多岐にわたる支援が求められるなど、普及の指導活動も高度化。一方、普及指導員等の若年者が進んでおり、経験の浅さが懸念。普及の指導体制では部門が中心の班編成がなされており、部門交班単独での普及活動となりやすい。</p> <p>【目標とする成果(令和8年度)】</p> <p>・後継者のいない経営体や地域の担当普及指導員等がプレミアム方式(利益配分と作業管理の仕組み)のメリット、デメリットを学ぶことで、法人に対する経営指導スキルを向上させる。併せて、共通課題の解決に向け部門横断タッグが組める普及指導員等を育成する。 ・普及経験3年目を中心とした若手普及指導員等が経営診断・分析及び改善提示等手法を習得する。 ・中堅の普及指導員が農業経営と栽培技術が連動した効果的な普及指導ができるようになる。</p> <p>【活動計画(令和8年度)】</p> <p>(1)共通課題解決研修「地域営農組織支援」の実施1回 (2)経営指導基礎I研修、経営指導基礎II研修の実施2回・4回</p>					担い手支援課	協同農業普及事業、集落営農経営進化モデル事業
大分県	1	中核的経営体の育成、次を呼ぶ新規就農受け入れ体制の確立	R7～R10	就業、経営	<p>○現状</p> <p>・おおいの農業経営・就業支援センターを活用した経営支援体制が確立されている。 ・市町により未来へつなぐ経営体リストが整備され、経営継承啓発対象者が明確になった。 ・経営継承啓発活動により、継承の相談数が増えつつある。 ・地域青年組織活動に独自色が出始めており、徐々に活性化が見られている。 ・就業サポート会議の設置により、就業情報の共有が進み、受け入れ態勢強化を図っている。</p> <p>○残された当面の課題</p> <p>・中核的経営体を育成するため、既存農家の経営力を強化し、規模拡大・経営継承等を推進する。 ・後継者のいない経営体や地域を牽引する経営体に対する第三者継承を含めた継承準備の意識付けを行う。 ・女性農業経営士養成講座やおおいの農業経営啓発受継者の経営セシオン作成・実践等を支援し、意欲ある農業者の経営発展を図る。 ・プロジェクト活動の支援を通じて、次世代のリーダーとなる青年農業者の育成を強化する。 ・就業サポート会議を核とした新規就農者等への受け入れ体制の強化を図る。継承資産(居抜き物件)を活用した新規就農者確保の取組推進</p>						各地域農協生産部会との連携、販売対策の実施
大分県	2	気象・市場変動に強い露地野菜生産基盤の構築	R7～R10	野菜	<p>○現状</p> <p>【白おぎ】</p> <p>・関係機関一体となり生産拡大、面積推進を行い産出額目標の達成が図られた。 ・異常気象により夏越し作型を中心に生産が不安定化している。</p> <p>【こおぎ】</p> <p>・共同調整場とパッケージセンターの人員費及び生産経費の高騰の影響で生産環境は厳しくなっている。</p> <p>【高糖度かんし】</p> <p>・夏の節水加入(R6)、広域選果場整備(R7)など、主要産地を越した更なる体制づくりが進行中である。 ・機械化により規模拡大が図られ、大規模経営体が増加しており、機械の効率的活用が更に必要である。 ・産地拡大に対応できる拠点施設(育苗・貯蔵)整備を図るため、農協育苗センターが増設(R6)</p> <p>○残された当面の課題</p> <p>【白おぎ】</p> <p>・規模拡大志向生産者について、見込みどりの収益が確保できるよう関係機関が連携した重点的な技術指導が必要である。 ・近年の異常気象に耐えうる栽培技術の構築が必要である。</p> <p>【こおぎ】</p> <p>・新規栽培者の早期経営安定に向けて関係機関と連携して重点的に指導する必要がある。 ・周年安定生産に向けた夏夏季高温対策技術の確立を行い、共同調整場の持続的な運営を図る必要がある。</p> <p>【高糖度かんし】</p> <p>・整備された生産拡大に向けた拠点施設(貯蔵・選果)の体制構築支援 ・ワイルドブルーの安定供給に向けた生産体制支援の強化 ・大規模生産者育成のため、機械の効率的な活用方法を確立する必要がある。</p>	各市町 産地ビジョンの策定、就業 支援			各地域農協 生産部会との連携、販売対 策の実施		大分県農林水産研究指導センター農業研究部

都道府県名	番号	計画名	計画期間	分野 (複数可)	活動計画の要約	連携機関 (役割分担)					活用事業
						市町村	JA	民間企業	試験研究機関	その他	
大分県	3	異常気象に負けない果菜類の安定生産支援	R7～R10	野菜	<p>○現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏高温の影響で生理障害の発生や花芽分化遅延、花落ちが生じ、収量が減少している。 ・環境制御技術の理解が深まり、技術導入により増収した生産者が出ていて、仲間割ができていない。 ・害虫の薬剤抵抗性発達に加え、新たな外来害虫、ウイルス病等の脅威が増している。 ・高齢化等による栽培中止、新規就農者の減少により栽培面積は減少傾向である。 <p>○残された当面の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・温暖化が果菜類の栽培に影響を及ぼしており、対策の徹底や技術確立により出荷量の確保が必要。 ・温暖化の中で経済的被害を出さない程度に病害虫の密度をコントロールするため予防や技術確立が必要。 ・気候変動の影響を受けず安定した栽培を行うため環境制御技術の活用が必要。 ・就業施設の確保等により規模拡大希望者や新規就農者が富集しやすい体制づくりが必要。 	各市町 産地ビジョンの策定、就業支援	各地域農協 生産部会との連携、販売対策の実施	-	大分県農林水産研究指導センター農業研究部	-	
大分県	4	国産需要に対応した新たな露地柑橘産地の育成 収益性の高い施設柑橘産地の育成	R7～R10	果樹	<p>○現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大分県柑橘研究会等の生産者団体は高齢化で会員数が減少、選果場取扱量も減少し産地機能が低下している ・地より稼働したFSにより各地で柑橘での新規就農者や後継者は増加している ・新たな担い手として積極的に企業参入を推進し、各地で柑橘の大規模経営体生まれている ・基盤整備による産地再編や経営の大規模化を進めており、新植面積が増加している ・各地に点在する専門選果場では機械設備の故障・や弊化と従業員の確保が困難になっている ・施設柑橘はハウスみかんをはじめとしてハウスデコポン等の施設中晩柑も収益性が高く、柑橘経営体の柱になる品目となっている ・近年施設柑橘では、需要期外生産物を海外輸出し有利販売する取組を進めてきた ・海外情勢変化や燃油価格高騰で施設建設費や生産経費が経営を圧迫しており、新規就農や規模拡大のハードルになっている <p>○残された当面の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲のある生産者を重点的に支援し、規模拡大や法人化を推進する必要がある ・積極的に企業参入を推進し、露地柑橘での大規模経営体を確保育成する必要がある ・市場流通外取引が拡大する中、業務需要や輸出等の新たな需要に対応した生産指導を行う必要がある ・基盤整備による圃場の大区画を推進し、乗用機械やスマート技術等活用できる高農産性のある圃地整備を行う必要がある ・施設選果場の再編整備に係る運搬船と二次世帯総合選果場構想を進める必要がある ・施設柑橘の栽培指導を標準化し、経験の浅い普及職員や農協指導員の指導力向上が必要である ・市場流通外取引が拡大する中、業務需要や輸出等の新たな需要に対応した生産指導を行う必要がある ・ヒートポンプや差熱資材、細露冷房等、気候変動に対応した技術普及を進める必要がある 	各市町 産地ビジョンの策定、就業支援	各地域農協 生産部会との連携、販売対策の実施	-	大分県農林水産研究指導センター農業研究部	-	
大分県	5	「ナシ」、「ブドウ」、「キウイフルーツ」、「クリ」の新規経営体の育成と力強い産地の育成	R7～R10	果樹	<p>○現状</p> <p>【なし】</p> <p>R7年度に3名が新規就農。就業候補地となる継承園をマッチング。 R6年度から日田市で新規造成園の事業が開始、客土工事と土壌改良を実施。R7年度施設整備植栽(約1ha)。 由布市で造成事業実施中(R8年度から植栽約4予定)。国東市(R9年度以降植栽 約18ha予定)でR8新規造成着手。</p> <p>【ぶどう】</p> <p>R7年度に10名が新規就農。7名が規模拡大。新規就農者が多く、R4～6年度に14名が就農。 宇佐市でFS生が3名在籍しており、今後も新規就農者は増加の見込み。 宇佐市で造成事業実施中(R7年度、3名1.4ha植栽)。</p> <p>【キウイフルーツ】</p> <p>佐伯市で企業参入(R4年植栽)があり、今後も拡大予定。他2社モータルスタート。 杵築市で規模拡大を予定 佐伯市、大分市で企業参入予定。豊後高田市、臼杵市で個人の新植希望がある。</p> <p>○残された当面の課題</p> <p>【なし】</p> <p>新規就農者の経営安定のため、早期成園化、経営指導が必要。また、FS生等の就業計画作成支援が必要。 日田市及び由布市の基盤整備事業の支援とさらなる面積拡大に向けた新規造成事業の取り組みが必要。 国東市の企業参入については、圃地設計や土壌改良方法の検討などの支援が必要。 由布市で就業希望者用の継承候補地の調査が必要。□</p> <p>【ぶどう】</p> <p>新規就農者数が多く、経営を安定させる必要がある。特に就農5年未満の新規就農者の早期成園化が必要。 宇佐市や日田市での継承可能圃地の把握とマッチングを進めるとともに、FS生等の就業計画作成支援が必要。 宇佐市の新規造成圃地の整備支援と入植者の確保が必要。</p> <p>【キウイフルーツ】</p> <p>新植後の早期成園化が必要。R8植栽の杵築市企業と臼杵市個人について、植栽植栽後の指導が必要。 佐伯市、大分市の基盤整備事業の支援が必要。 【クリ】豊後大野市、佐伯市の基盤整備事業の支援が必要。</p>	各市町 産地ビジョンの策定、就業支援	各地域農協 生産部会との連携、販売対策の実施	-	大分県農林水産研究指導センター農業研究部	-	
大分県	6	大分県特産花きホオズキ・花木等の産地振興	R7～R10	花き	<p>○現状</p> <p>(ホオズキ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産者の高齢化に伴って栽培面積および生産量が減少している。 ・販売単価が上がっているもの、生産コストも上がっている。 <p>(花木) □</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一部地域で以前から栽培されているが、栽培品目や栽培地域は限定的で、生産量も少ない。R6年度から新たな推進品目として県全体で本格的な推進を行っているが、栽培技術が十分に伝達されていない。 ・苗生産が難しいあるいは時間がかかるため、民間業者からの苗供給だけでは、面積拡大に応じた十分な苗量を確保できない。 <p>○残された当面の課題</p> <p>(ホオズキ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな生産者の確保、既存生産者の面積拡大 ・多品目との複合経営の推進 ・栽培の省力化、栽培施設の低コスト化 <p>(花木)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規栽培者の確保 ・栽培技術の確立 ・苗の供給対策 	各市町 新規栽培・規模拡大支援	各地域農協 生産部会との連携、販売対策の実施	-	大分県農林水産研究指導センター農業研究部	-	

都道府県名	番号	計画名	計画期間	分野 (複数可)	活動計画の要約	連携機関(役割分担)					活用事業
						市町村	JA	民間企業	試験研究機関	その他	
大分県	7	全国トップレベルの肉用牛産地づくり	R7～R10	畜産	<p>○現状 (繁殖や経営難による廃業で飼養戸数は減少傾向である。飼養頭数についても近年の相場安、資材高の状況から資金調達の困難さから新規就農や規模拡大が滞っており、維持ないし減少が見込まれる。各地域にて重点指導対象農場を設定し、繁殖肥育技術強化指導チームによる生産性向上対策を実施した。高効率化や規模拡大に伴い労働力が不足。このような産地拡大のボトルネックとなる構造的課題の解決にむけた一環として、玖珠地域においてキートンアクションが稼働開始。出荷成績は市場平均と遜色ないものであった(肥育) □</p> <p>・技術成績は、技術重量及び歩留まりとともに、年々改善しているものの、全国平均の低位を推移している。県農協肥育センターの生産性向上にむけて改善指導を実施し、3センターの管理技術の普及化は概ね達成。更なる改善にむけて肥育期間短縮実証試験を実施中(共通)</p> <p>・諸情勢を受けて飼料価格が高騰している一方で、子牛価格及び枝肉価格の低迷が続いており、経営の外部環境が厳しい。</p> <p>□残された当面の課題(繁殖)</p> <p>・新たに策定された子牛飼養管理マニュアルについて、普及員等技術者の理解醸成、農家への効果的な伝達を実施</p> <p>・子牛価格が低下するとされる10産以上の繁殖雌牛が全体の10%以上存在しており、若返りが必要</p> <p>・子牛損耗や繁殖成績の低迷など、課題を抱える重点指導対象農場の生産性の改善□</p> <p>・産産の構造的課題の解決に向けた作業外部化(キートンアクション、ヘルパー組織等)の仕組みづくり等の支援</p> <p>・ICTツール等の有効利用による繁殖に係る生産性改善のモデル事例の育成(肥育) □</p> <p>・技術成績の低迷等、課題を抱える重点指導対象農場の生産性の改善</p> <p>・県農協肥育センターにおける監督期間短縮実証試験の検証</p> <p>・来る北海道全共に向けた取組の支援。当面は畜産技術室の24ヶ月肥育チャレンジ事業の支援を実施(共通)</p> <p>・厳しい外部環境下において経営状況の悪化が懸念される生産者への経営安定化にむけた支援</p>	各市町 就農支援	各地域農協 生産部会との連携、販売対策の実施	-	試験研究機関 大分県農林水産研究指導センター畜産研究部	-	
大分県	8	生産性向上を目指す酪農経営の展開	R7～R10	畜産	<p>○現状 ・預託牧場の下牧牛の状態は以前より改善したが、2牧場間で預入れの偏りがある</p> <p>・暑熱対策は既に幅広く取り組んでいるが、対策が追い付かないと暑熱の影響が出ている</p> <p>○残された当面の課題</p> <p>・個体乳量の低い経営体への飼養管理・基本技術の徹底□</p> <p>・預託牧場の利用拡大及び預託牧場、酪農家双方の経営安定</p>	各市町 担い手育成	各地域農協 生産部会との連携、販売対策の実施	-	試験研究機関 大分県農林水産研究指導センター畜産研究部	-	
大分県	9	水田農業の次代を担う経営体育成及び需要に応じた穀物産地の形成	R7～R10	稲作 普通畑作物	<p>○現状 ・集落営農組織では高齢化や後継者不足を理由に経営が困難となる事例が発生している。課題を解決するため「中山間地営農経営体強化対策事業」を活用し改善を図っている。</p> <p>・担い手への農地集積は徐々に進んでいるが、農地は分散しており効率が低下している。</p> <p>・なつほのかは目標とする3000haを達成した。</p> <p>・普及員の技術指導能力強化を目的に、乾田直播・大豆研修会や情報提供を実施した。</p> <p>○残された当面の課題□</p> <p>・雇用をしている法人、雇用を目指す法人への運営や経営改善の支援</p> <p>・持続性のある効率的な営農体制確立を目指し、法人間連携や連合法人設立等による集落営農法人再編統合を推進</p> <p>・スマート農業等を活用した省力化の推進</p> <p>・麦、大豆、飼料用米の単収向上</p> <p>・販路用小販においては、実需の求めるタンパク質向上が課題</p> <p>・なつほのかの安定生産</p>	各市町 担い手育成	各地域農協 集落営農組織との連携、販売対策の実施	-	試験研究機関 大分県農林水産研究指導センター農業研究部	-	
大分県	10	市場ニーズに対応した安全・安心な農産物の生産拡大	R7～R10	持続可能な農業 農産生産工程 管理(GAP)	<p>○現状 ・県内オーガニックブレンド3市(臼杵市、佐伯市、豊後高田市)を中心に、有機農業の推進に取り組む市町村の連携が進みつつある。また、県内有機農業業者を中心とした組織による県域流通体制の整備が進んでいる。このような中、県による推進支援の取組に更なる強化が求められる。</p> <p>・農業の持続可能性を担保するためGAPの実践が求められているが、「GAP-認証」「手間がかかって大変」等のイメージから取組が広がっていない。GAP認証については新たに認証を取得する経営体が複数品目で現れている一方「認証のメリットを感じられない」等の理由から認証継続を断念する経営体も多く、県全体としてGAP認証経営体数は漸減傾向である。</p> <p>○残された当面の課題□</p> <p>・市町村への支援(栽培・経営に関する指導体制、市町村間連携の支援)</p> <p>・県域流通体制の確立支援</p> <p>・GAPを実践する取り組みの更なる拡大</p> <p>・GAP認証取得の推進、認証取得者への継続支援</p>	各市町村 有機農業の推進	-	NPO法人おいた有機農業研究会 有機農業の推進について連携	大分県農林水産研究指導センター農業研究部	-	
大分県	11	適切な鳥獣被害対策の推進と捕獲者の確保・育成	R7～R10	鳥獣被害防止 対策	<p>○現状 ・127から指定している予防強化集落(689地区/71.4)を中心に被害対策の取組を推進しており、被害額は(06)1億5千万円。大分県鳥獣対策アドバイザー養成研修会や各地域での現地研修会等により、対策に係る知識・技術の普及を図っている。ノゾシとシカの捕獲頭数は、全国上位を維持しているものの、捕獲者の高齢化により、今後の捕獲量の維持が懸念。</p> <p>○残された当面の課題</p> <p>・県鳥獣被害額は減少しているが、中山間地域を中心に鳥獣被害が深刻化しており、適切な被害対策の継続が求められている。</p> <p>・被害対策の推進・指導体制が不十分であり、振興局や市町村等関係機関の農林部署が積極的に関わるよう推進する。</p> <p>・捕獲量の維持には、若手捕獲者の確保と捕獲技術の向上が必要となる。また、ICT等を取り入れた効率的な捕獲技術の推進が必要。</p>	各市町村とサポートチームを 結成	-	捕獲等について猟友会と連携	-		
宮崎県	1	“農の魅力を生み出す”人材の育成と支援体制の構築	R8～R12	新規就農、参入、経営資源、承継、雇用	<p>【地域の現状と課題】</p> <p>・本県の総農家戸数は年間に約1,500戸が減少し、今後10年間で3割程度が減少する見通し。資材等の価格高騰で新規就農が困難。初期投資の負担軽減による定着率の向上が課題。</p> <p>・また人口減少に伴い他産業との人材獲得競争が激化。農業現場における多様な雇用人材の確保が課題。</p> <p>【目標を達成するための活動方法】</p> <p>・各地域で定着・誘致が可能な新規就農モデルを構築し、研修受入体制・承継の体制をつくる。</p> <p>・各地域の特性に合わせ、多様な人材が活躍できる労働力融通の仕組みづくりや環境を整える。</p>	県内23市町村 ●主務担当 地域の産地サポート機能(人材育成・労働力調整・生産等連携・経営資源承継)の強化 本県農業経営・就農支援センター地域相談窓口(例:地区農業経営体支センター)として就農や参入の相談に対応。 地域の承継支援体制の組織 認定研修機関	JAみやざき13地区本部 ●主務担当 地域の産地サポート機能(人材育成・労働力調整・生産等連携・経営資源承継)の強化 本県農業経営・就農支援センター地域相談窓口(例:地区農業経営体支センター)として就農や参入の相談に対応。 地域の承継支援体制の組織 認定研修機関。	生産部会、農業法人等 ○副担当 認定研修機関 事業者、特定協、法人等 ○副担当 労働力調整、農作業委託等を行う農業支援サービスを提供	県総合農業試験場 ・専門技術センター ●プロジェクト担当 ●新規就農経営モデルの構築に向けた課題整理、普及指導員・JA指導員・市町村職員等の連携支援、研修受入・承継の体制づくりの県内波及、農業支援サービスを含む人材確保の強化等。 ○副担当 認定研修機関	支庁・振興局(農業改良普及センター) ●主務担当 地域の産地サポート機能(人材育成・労働力調整、生産等連携・経営資源承継)の強化 本県農業経営・就農支援センター地域相談窓口(例:農業経営相談所)として就農や参入の相談に対応。 各地域プランにより普及活動を展開。 地域の承継支援体制の組織。	(国・県)新規就農者確保総合対策事業推進確保、「みやざきで就農!」サポート事業、(国)雇用就農の総合的な推進、雇用就農資金、トライアル雇用就農促進事業・雇用体制強化事業 外国人受入総合支援事業、雇用就農緊急、農業支援サービスの上げ支援のうち農業支援サービス事業育成対策、(国・県)加工・業務用野菜日本一産地確立事業
宮崎県	2	持続可能な大規模水田農業の実現	R8～R12	普通作物、農地野菜	<p>大規模経営体を対象に個別訪問し、県農経営指導を活用した経営改善計画の策定する。各種研修やモデル経営体のOITを通じて、経営者への非営利支援を行う指導人材の育成する。ほ場排水対策技術やスマート農業技術、新品種導入に向けた実証と技術評価の確立・普及を進める。</p>	重点対象集農は場のある市町村 農地情報の提供	JAみやざき 生産部会への情報提供 新品種導入時の出荷調整、販売に向けた検討	総合農業試験場作物部・畑作園芸支場 新品種や新技術の実証	-		
宮崎県	3	有機農業とニーズに対応した茶の推進による産地競争力強化	R8～R12	茶	<p>有機栽培技術の宮崎県内での普及・定着を進め、生産基盤の強化を図るとともに、多様な茶種に対応した栽培・加工技術の導入を促進し、品質の安定化を図る。あわせて、拠点工場を核とした共同体制の構築と流通機能の強化を進め、輸出に対応できる持続的で競争力のある産地づくりに取り組む。</p>	栽培指導と販売・流通支援	有機農業の技術開発と新たな茶種の開発	-			

都道府県名	番号	計画名	計画期間	分野 (複数可)	活動計画の要約	連携機関(役割分担)				活用事業	
						市町村	JA	民間企業	試験研究機関		その他
宮崎県	4	生産性向上による肉用牛繁殖基盤の強化	R8～R12	肉用牛繁殖	○地域の現状と課題 ・産後失調・産後熱等の事故率が高く、対策不足が経営に悪影響を与えている ・分娩間隔が長期化する傾向 ・若い技術員が増え、経営指導ができる人材が不足している ○目標を達成するための活動方法 ・養牛・養肉対策の実証および普及 ・経営規模に応じたスマート技術の導入推進 ・関係機関と連携した農業者及び畜産指導員の人材育成強化	各市町村 農家情報の収集	JAみやざき ・連携しながら生産性向上を図る取り組みを実施 ・経営指導のできる人材の育成	MOSAI 疾病対策、繁殖性向上を中心に取り組みを実施	畜産試験場 ・繁殖対策の技術確立に向けた取り組みを実施	・和牛コンソーシアム(地域畜産技術員会) JA、MOSAI、県が連携し、スマート技術の実証や生産性向上を図る ・畜産協会 繁殖成績及び経営分析の実施、指導力向上研修の実施	
宮崎県	5	適切な土壌管理による良質粗飼料生産の推進	R8～R12	飼料作物、土壌肥料	○地域の現状と課題 ・輸入粗飼料の価格が高騰していることから、良質な粗飼料の生産が重要視されているが、適切な土壌管理が十分にはなされていない状況にある。 ○目標を達成するための活動方法 ・普及指導員を中心とした指導体制を構築するとともに、展示ほの設置や生産者を対象とした研修会等により、適切な土壌管理の技術普及を図る。	○金城 ・各地域技術員会との連携		○MOSAI ・生産者を対象とした合同研修会の開催	○畜産試験場 ・情報提供、助言・指導	○畜農振興協会飼料部会 ・展示ほ設置を通じた土壌管理技術の普及 ・技術員の指導力向上 ・バイオガスアミューラント、畑かん水等新たな視点での実証	
宮崎県	6	気候変動に対応した園芸品目の生産安定	R8～R12	野菜、果樹、花	高温の影響を受け、園芸品目の良質な苗生産や栽培管理が困難となり、品質低下や減収が深刻な課題となっている。このため、高温期に適した育苗および栽培管理技術を確立し、安定生産体制を構築する。また、環境データに基づいた栽培管理手法を導入することで、生育の健全化と収量向上を図る。		JAみやざき ・JAみやざき各市区本部と連携し展示ほの設置と環境データの利用を検討	ジェイアグリシード ・良質な苗生産に向けた意見交換を実施 選材メーカー 環境改善に向けた資料の情報交換	総合農業試験場 ・環境データの活用方法を協議		みやざき施設園芸デジタル化推進プロジェクト(Dプロ)
宮崎県	7	いも類の種苗供給体制の構築	R8～R12	野菜	○本県の現状と課題 ・本県のイモ類(かんしょ、サトイモ)の種苗供給の体制は、苗段階での発病や種芋生産者の減少等により供給が不安定であり、本県生産者による規模拡大や増収等にも影響を来している。 ○目標を達成するための活動方法 ・安定して種苗供給を行うため、供給状況を関係機関で定期的に見直し協議を行う。また、種苗生産に関するマニュアル等の作成も行う。		○JAみやざき ・種苗供給体制の協議	○バイオテックセンター ・種苗供給体制の協議	○畑作園芸支場 ・種苗供給に関する技術の確立 ・種苗供給体制の協議	○普及センター ・種苗供給体制の協議	
宮崎県	8	果樹を中心とした持続可能な数農経営モデルの育成	R8～R12	果樹	マンゴア及びライチにおいては品質・収量向上、露地果樹においては生産量及び面積の維持が課題となっている。このため、環境制御技術等によるマンゴア及びライチの高収益技術の確立、露地果樹の持続可能な栽培モデルの構築を図り、農家の経営安定につなげる。		JAみやざき ・JAみやざき各市区本部と連携し研修会の実施及び各種展示ほを設置	総合農業試験場 ・生産力向上及び省力化技術の確立		みやざき施設園芸デジタル化推進プロジェクト(Dプロ)	
宮崎県	9	中山間農業の持続的な生産体制確立	R8～R12	稲作、普通畑作物、野菜、果樹、花き、畜産、経営	○地域の現状と課題 ・中山間地域では農産・園芸・畜産・林業等を組み合わせた複合経営を行っているが、モデル的な経営体が確立していないため、新規就業者等が参入しにくい。 ○目標を達成するための活動方法 ・中山間地域の特徴を生かした複合経営による農業生産体制を確立する。 ・営農品目の種苗共有体制を確立し、経営の主力目として定着させる。 ・果樹を中心とした複合経営における持続可能な栽培モデルを確立する。		JAみやざき 研修会の実施 現地巡回	バイオテックノロジー種苗供給センター ラナンキュラスおよびリンドウの種苗供給体制の確立		(国)みやざき果樹花き産地生産力強化事業	
宮崎県	10	スイートピーを核とした大規模経営体の育成	R8～R12	花き、稲作、普通畑作物、野菜、経営	○地域の現状と課題 スイートピーでは、温暖化による気候変動等により生産が不安定になっている。また、複合経営を行う上で組み合わせる品目の選定が必要である。 ○目標を達成するための活動方法 スイートピーの安定生産に向けて高収益化技術を導入する。また、スイートピーと組み合わせる作物の収量・品質向上対策を実施する。		JAみやざき 研修会の実施 現地巡回	総合農試花き部 スイートピーにおける高収益化技術の検討			
宮崎県	11	地域住民が主体的に取り組む鳥獣被害防止対策の推進	R8～R12	鳥獣被害防止対策	集落ぐるみの鳥獣被害防止対策の推進と地域モデルの育成、適切な知識の普及や現地における技術定着等の役割を担う鳥獣被害対策マスターの養成、地域の条件に適した被害対策技術の実証展示と普及に取り組むことで、野生鳥獣による農作物被害の軽減につなげる。	各市町村 ・集落ぐるみの被害対策の推進 ・鳥獣被害対策マスターの養成	JAみやざき ・鳥獣被害対策マスターの養成	電気備メーカー等 ・被害対策技術の実証展示 鳥獣被害対策マスターの養成	総合農業試験場 ・被害対策技術の実証展示	(国)鳥獣被害防止総合対策交付金	
鹿児島県	1	気候変動に対応できる産地の育成(R8～R10)	R8～R10	稲作 普通畑作物 野菜 果樹 花き 畜産 都道府県が定める分野(茶) 都道府県が定める分野(病害虫) 都道府県が定める分野(土壌肥料) 都道府県が定める分野(農業機械)	○現状と課題 気温上昇に伴う高温障害により作物の収量や品質低下、暖冬の影響による病害虫の発生地域の拡大、家畜に対する影響が顕在化している。 ○目標を達成するための活動方法 1 気候変動の影響を軽減する技術の実証・普及 (1)高温対策資材等による栽培環境調節技術の実証・検討 (2)家畜の暑熱対策技術の検討 (3)病害虫の適切な防除技術の実証 2 気象変動の影響を回避する技術の実証・普及 (1)耐性品種導入の検討 (2)栽培体系の調整技術の検討 (3)気象条件を活用した作期拡大技術の実証 3 気象変動の影響を活用した技術の実証・普及 (1)温暖化条件を活用した作期拡大技術の実証 4 地味温暖化を防止する技術の実証・普及 (1)土壌管理及び水管理による温室効果ガス排出削減技術の実証 (2)農業機械の効率的利用による温室効果ガス排出削減技術の推進			・県農業開発総合センター園芸作物部、果樹花き部、生産環境部、畜産試験場 ※実証活動に対する助言指導	・関係する各地域振興局 ※実証活動 ・関係する園芸振興協会支部 ※実証活動 ・県農産園芸課 ※進捗状況管理、広域研修会等の開催 ・県畜産振興課 ※計画、実績検討	(国)気候変動に対応した園芸産地づくり事業	
鹿児島県	2	環境負荷低減技術の推進	R6～R8	野菜 作物 果樹 総合防除(IPM) 都道府県が定める分野(病害虫) 都道府県が定める分野(土壌肥料) 都道府県が定める分野(茶)	○現状と課題 みどりの食料システム戦略において、化学合成農業や化学肥料の使用量低減が掲げられており、今後開発された対策技術を現地に普及する必要がある。 ○目標を達成するための活動方法 1 化学農業の使用量低減技術の普及 (1)総合防除(IPM)技術の推進 ア.天敵利用技術 イ.新資材(バイオスティミュラント等)の利用技術 ウ.ハルサメ端材利用による土壌還元消滅技術の実証と普及拡大 エ.連作障害対策等の推進 2 化学肥料の使用量低減技術の普及 (1)厩舎堆肥複合肥料等や下水汚泥肥料の利用技術の実証と課題整理 (2)土壌診断に基づく適正施肥技術の実証と課題整理 (3)二段局所施肥技術の普及	鹿児島県経済連 各種の現地実証における情報提供や検討会の開催		鹿児島県農業開発総合センター 各種の取り組みに対する技術的な支援	・関係する各地域振興局 ・経営者課	(国)みどりの食料システム戦略推進事業	

都道府県名	番号	計画名	計画期間	分野 (複数可)	活動計画の要約	連携機関（役割分担）				活用事業	
						市町村	JA	民間企業	試験研究機関		その他
鹿児島県	3	中山間地農業の振興	R6～R8	稲作 普通畑作物 野菜 果樹 普及指導活動 スマート農業 都道府県が定める分野（土壌肥料） 都道府県が定める分野（集落営農） 都道府県が定める分野（農業機械）	○現状と課題 産地振興に携わる経験の浅い若手普及職員が増加する一方で、普及職員と連携すべき営農指導員や市町村職員が減少している。中山間地域の農業や集落機能を維持・発展させるため、主体的に参画する地域住民を支援にサポートできる人材の育成が必要である。 農業従事者の高齢化や減少により、認定農業者等地域農業の担い手に農地を集積・集約化が必要である。 また、農業従事者の高齢化や減少に加え、中山間地域の農業労働力も減少してきており、ICT・省力化技術等の導入により、効率的な農業経営を行う必要がある。 ○目標を達成するための活動方法 1. 支援人材の育成 (1) 地域営農課題解決研修会（普及職員、関係機関）の企画、実施、評価 (2) 地域営農課題解決支援マニュアルの作成 2. 担い手等への農地集積・集約の支援 (1) 関係機関と連携した担い手、農作業受託組織等の合意形成 3. ICT・省力化技術の現地活用支援 (1) スマート農業技術の労働力補充 効果試算及び検証 (2) スマート農業技術を活用した生産管理の実証 (3) スマート農業技術の果樹への活用の実証	南さつま市		(株) クボタ	鹿児島県農業開発総合センター園芸作物部	・関係する各地域振興局 ・農産園芸課 ・農地整備課	(県) スマート農業導入加速化推進事業、スマート農業基盤整備モデル事業
鹿児島県	4	技術と経営を両輪とした普及活動の仕組みづくり	R6～R8	稲作 普通畑作物 野菜 果樹 花き 畜産 経営 普及指導活動 都道府県が定める分野（茶）	○現状と課題 農業者の支援については、栽培飼養管理技術とそれに伴う経営管理技術の両方からの支援が重要である。一方で、普及指導体制は若い職員の増加や、異動による指導経験の不足など実務の強化が求められている。そこで、技術水準の分析と改善のポイントを明確にする「技術診断指標」と「農業経営管理指導指標」を改定し、経営と合わせた支援が確実に成されるよう仕組みを形成する。 ○目標を達成するための活動方法 1. 農業経営管理指導指標の活動方法の波及 (1) 全体分析ソフトの更新 (2) 高目分析ソフトの更新 (3) 営農計画システムの更新 (4) 資金計画作成システムの更新				・関係する各地域振興局		
沖縄県	1	柑橘産地の生産振興と省力化技術の普及	R6～R8	果樹	○地域の現状と課題 ・大宜味村は県内でも有数のシークワーサーの拠点産地である。 ・樹の高木化、病害虫被害等により生産量が不安定であり、計画的な更新や適期防除対策が必要。また生産者の高齢化が進行しており、担い手育成が課題となっている。 ○目標を達成するための活動方法 ・研修会等の開催による産地リーダー育成 ・病害虫防除技術や省力化技術に関する講習会、現地検討会等を行う。	大宜味村、大宜味村シークワーサー産地振興協議会 果樹振興対策事業活用に向けた産地計画の策定、生産者への周知。	JA北部地区営農振興センター、JA大宜味支店 JAと協力して生産部会で講習会、現地検討会を実施	農業研究センター シークワーサー経営モデルの検討			